

「蝟蝟蠖蠖」の解釈について

郎 潔

【およその解釈】

「蓋天子穆然珍臺閒館、璇題玉英、蝟蝟蠖蠖之中。惟夫所以澄心清魂、儲精垂思、感動天地、逆釐三神者」(蓋し天子珍臺閒館、璇題玉英、蝟蝟蠖蠖たる中に穆然たり。夫れ心を澄まし魂を清くし、精を儲へ思ひを垂れ、天地を感動せしめ、釐^{さひ}ひを三神に逆ふる所以の者を惟ふ。)玉で飾った垂木の端が輝き、曲がりくねった彫刻が全面に施される、この美しく広大な楼台の中、天子は静肅にあらせられ、心を澄ませ、魂を清め、精神を蓄え、思索をめぐらし、そして天地を感動させ、三神から幸福を授けられる方法を考える。

このうち、「蝟蝟蠖蠖」について解釈する。

【校勘】

『六臣註文選』は「蝟」を「蠖」字に作る。

【旧注・旧説の整理】

- (1) 顔師古注引張晏注：「蝟蝟蠖蠖、刻鏤之形。」(蝟蝟蠖蠖とは、彫刻の様子である。)
- (2) 顔師古注：「蝟蝟蠖蠖、言屋中之深廣也。」(蝟蝟蠖蠖とは、建物の広く深い様を言っている。)
- (3) 張銑注：「蝟蝟蠖蠖、宮觀深邃之貌。」(蝟蝟蠖蠖とは、宮殿の奥深い様である。)
- (4) 王先謙注：「蝟蝟、予案字書、好印也。」(蝟蝟とは、私が字書をもとに考えるところでは、良い印鑑の意味であ

る。

(5) 『揚雄集校注』：「蝟蝟蝟蝟、張晏以為形容刻鏤之狀、顏師古以為形容屋中深廣、未知孰是、說可兩存。(蝟蝟蝟蝟について、張晏は彫刻の様子と解釈しているが、顏師古は建物の深く広い様子を表していると主張している。これについてはどちらが正しいかは分らない。両説ともに残すべきである。)」

(6) Knechtges 注… Both *yuanwan* 蝟蝟 (**juen*-**juan*), my “crinkled and curled”, and *huohuo* 蝟蝟 (**wak-gwak*), my “scrolled and scalloped”, are rhyming binomes used to describe the convolutions of the ornate carvings on the buildings. See Hu Shaoying 8.8b-9a. Hu thinks *huohuo* is a variant of *huohue*. (「縮れ捻れた」と訳した「蝟蝟」と「渦巻き縁取られた」と訳した「蝟蝟」は、どちらも疊韻の語であり、建物の上に刻まれた渦巻きのような装飾を形容する連綿語である。胡紹煥「文選箋證」参照。彼は「蝟蝟」は「蝟略」の変形と考えている。)

【問題提起】

以上のように、「蝟蝟蝟蝟」の意味について、主に二つの説が存在する。一つは建物にほどこされた彫刻の曲がりくねった様子を描写する言葉であるという解釈、もう一つは建物の奥深い様子を描写する言葉であるという解釈である。「蝟蝟」(蝟 *yuan*) 『集韻』蔡玄切・蝟 *yuan*』 『廣韻』烏玄切)と「蝟蝟」(蝟 *huo*) 『廣韻』烏郭切・蝟 *huo*』 『廣韻』胡誤切)はともに連綿語である。連綿語はもともと発音を漢字で表記したもので、初期の頃はまだ不安定で、同音或いは発音の近い漢字による書き替え現象が多く見られる。よって、「蝟蝟」と「蝟蝟」の意味を探るには、発音の近い連綿語を探し、その意味を整理することが重要な手がかりになると思われる。このような方法で、「蝟蝟蝟蝟」の解釈を試みたいと思う。

【用例・考察】

【用例①】婉婉（婉 wan3【廣韻】於阮切）

「楚辞『離騷』」に「駕八龍之婉婉兮、載雲旗之委蛇（八龍の婉婉たるに駕し、雲旗の委蛇たるを載。）」とある。王逸注に「婉婉、龍貌」（婉婉とは、龍の姿である）とある。

ここで述べられる「龍の姿」とは、うねり進む様子であると考えるのが妥当と思われる。よって、「うねり進む八頭の龍に車を挽かせ、たなびく雲の旗を上に乗せる」という意味になる。

【用例②】宛宛（宛 wan3【廣韻】於阮切）

「文選・司馬相如『封禪文』」に「宛宛黃龍、興德而升（宛宛たる黃龍、徳に興りて昇る。）」とある。李善注に「楚辞』曰・駕八龍之宛宛」（楚辞に曰く・八龍の宛宛たるに駕す）とある。

李善注に引いたのは用例①のことだろう。用例①の注を参考に解釈すると、「うねり進む黃龍は、徳に応じて現れる」という意味になる。

【用例③】蜿蜿（蜿 wan1【廣韻】於阮切）

「文選『高唐賦』」に「振鱗奮翼、蜺蜺蜿蜿。（鱗を振るひ翼を奮ひ、蜺蜺蜿蜿たり。）」とある。李善注に「蜺蜺蜿蜿、龍蛇之貌（蜺蜺蜿蜿とは、龍や蛇の姿）」とある。

ここで描かれた龍や蛇の姿とは曲がりくねったものであろう。よって「鱗を振るつて翼を羽ばたき、うねうねと曲がりくねって（飛んでいく）」という意味になる。

〔用例④〕宛蜒（宛 wan3 〔廣韻〕於阮切；蜒 yan2 〔廣韻〕以然切）

〔漢書・司馬相如傳「大人賦」〕に「駕應龍象輿之螭略委麗兮、騫赤螭青虬之蚺蜺宛蜒（應龍、象輿の螭略委麗たるに駕りて、赤螭、青虬の蚺蜺、宛蜒たるを騫とす。）」とある。顏師古注に「螭略、委麗、蚺蜺、宛蜒、皆其行步進止之貌也」（螭略、委麗、蚺蜺、宛蜒は、皆それ（應龍）の進んだり止まったりする姿である。）とある。

注釈を参考に解釈すると、「うねり進む應龍と象輿に車を挽かせ、曲がりくねる赤螭と青虬を騫とする」という意味になる。

〔用例⑤〕兔延（兔 yan1 〔廣韻〕於袁切；延 yan2 〔廣韻〕以然切）

〔漢書・揚雄傳「甘泉賦」〕に「曳紅采之流離兮、颺翠氣之兔延（紅采の流離たるを曳き、翠氣の兔延たるを颺ぐ）」とある。〔漢書補注〕引錢大昭注に「兔延、與蜿蜒同。（兔延は、蜿蜒と同じである）」とある。

注釈と〔用例③〕によれば、「赤い気がきらめいてたなびき、緑の気がうねうねと舞い上がる」という意味になる。

〔用例⑥〕蜺螭（蜺、蜿と同じ、蜿 wan1 〔廣韻〕於阮切；螭 chan2 〔集韻〕時連切）

〔文選「琴賦」〕に「滌汨澎湃、蜺螭相糾（滌汨澎湃として、蜺螭として相糾ふ）」とある。張銑注に「蜿螭、盤旋貌（屈折して迂回する様子）」とある。

注釈によれば、「波が激しく揺れ動き、相打ち、うねうねとしてもつれ合い」という意味になる。

〔用例⑦〕螭略（螭 huò4 〔廣韻〕烏郭切；略 lue4 〔廣韻〕離灼切）

用例④を参考。

⑦—②

「文選『甘泉賦』」に「駟蒼螭兮、六素虬、螭略蕤綏、灘虛慘纏（蒼螭を駟にし、素虬を六にす。螭略蕤綏、灘虚慘纏たり。）」とある。李善注に「螭略蕤綏、龍行之貌（螭略蕤綏は、龍の行く姿である）」とある。

注釈と用例④によれば、「四頭の青い螭と六頭の白い虬が車を挽き、体をうねり曲がらせて進み、車の飾りは垂れてたなびく」という意味になる。

【結論】

「螭淺」の用例は極めて少ない。胡紹煥の「螭略」説について考察したところ、⑦番の二つの用例が示したように、龍の動きを描写する言葉であることが分る。「螭淺」の用例の少なさと対照的に、「蝟蝟」（及び「螭蝟」）に音、義の近い連綿語は数多く存在する（量が多い為、全部列挙することができなかった）、その中から典型的な使い方を用例①⑥にまとめた。）それらの連綿語を調べたところ、龍の姿、龍の動き及び龍のように曲がりくねった形を描いていることが多い。以上の考察、及び、顔師古の「蝟蝟螭淺、言屋中之深廣也」との解釈を支持するほかの用例がないことから、張晏の「蝟蝟螭淺、刻鏤之形」の解釈が適切であると考える。